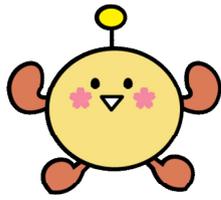


令和4年度

岡崎市こども発達センター事業報告



種の妖精
すーりん



葉っぱの妖精
くーりん



花の妖精
もーりん



こども発達センター 西棟



こども発達センター 東棟（体育館棟）

センター長 あいさつ

お子さまの健やかな成長は すべての親の願いです

お子さまに関する不安や心配は 少しでも早く解消し 子育てを
楽しんでいただきたいと考えています

当センターは 子育ての楽しさがどんどん増すよう全力で応援します

たとえ ちょっとした心配でも お気軽にご相談下さい

医療や支援の専門スタッフが あらゆる不安の解消に向け 心を込めて
お手伝いします

岡崎市こども発達センター長 早川 文雄

目次

第1 岡崎市こども発達センターの概要	
1 理念・運営の方針・各センターの基本姿勢	1
2 沿革	3
3 建築概要	4
4 事業概要	4
5 職員体制	5
6 岡崎市の発達に心配のある子の早期発達支援システム	6
第2 こども発達相談センター	
1 療育的支援事業（にこにこきっず2）	7
2 専門相談	8
3 電話相談	11
4 就園相談	12
5 就学時相談・就学後支援	13
6 福祉サービス等個別相談	16
7 巡回支援	17
8 訪問支援	18
9 地域啓発（研修・出前講座）	19
10 各種会議	22
第3 こども発達医療センター	
1 診療（初診・再診）	23
2 アセスメント	25
3 支援	26
4 啓発事業	28
5 その他の事業	29
第4 こども発達支援センター	
1 児童発達支援事業（単独通所わかば・親子通所めばえ・保育後療育つばさ）	31
2 保育所等訪問支援事業（あおい）	34
3 日中一時支援事業（たんぼぼ）	35
4 相談支援事業	36
5 きょうだい支援	36
6 家族支援	36
第5 SPC（PFI事業者）管理部門の事業	
1 総合受付	39
2 託児室	39
3 オープン・スペース（一般開放の遊戯室）	40
4 こども発達センター東棟（体育館棟）	40

※ 本報告における「発達」とは、発達障害者支援法に定める発達障がい及びその疑いを含むものを指す。

第1 岡崎市こども発達センターの概要

1 理念・運営の方針・各センターの基本姿勢

岡崎市こども発達センターは 施設・職員が以下のコンセプトのもと
子どもの状況に合わせた支援を提供します

理念

発達に心配のある子どももそうでない子どもも ともに生まれ育った地域で
自分らしく生き生きと笑顔で生活できるよう 発達支援の拠点機能を果たします

運営の方針

発達に心配のある子どもが 早期に必要な相談・医療・支援を受けられるように
します

発達に心配のある子どもおよび不安を抱える家族が 持てる力・育つ力を最大限
に引き出す支援をします

保健・医療・福祉・教育機関のネットワークを構築し 切れ目ない発達支援体制
を整備します



各センターの基本姿勢

【こども発達相談センター】

～ともに気づき支える～

子どもの普段の様子や家族の困り感を丁寧に聞き
対応方法や必要な支援を保護者と一緒に考えます

発達に心配のある子をはじめ、発達障がいに関する
地域の理解を深める事業を行います

【こども発達医療センター】

～ともに向き合い受けとめる～

多方面から子どもの様子を確認し
発達評価や診断を行います

子どもの発達特性に合った医療的支援を行います

【こども発達支援センター】

～ともに受けとめ育む～

子どもの成長・発達状況に合わせた支援計画を作成し
適切な療育を行います

子どもがより良い環境で育つように
家族、支援者を対象に支援を行います

2 沿革

年月	内容
平成 25 年 3 月	「岡崎市こども発達センター等基本計画」策定
平成 27 年 6 月	こども発達センター西棟（新築部分）土地購入
平成 28 年 1 月	こども発達センター西棟（新築部分）建設工事着工
平成 29 年 3 月	こども発達センター西棟（新築部分）建設工事竣工
平成 29 年 4 月	こども発達センター西棟（新築部分）開所
平成 29 年 4 月	岡崎市こども発達センター条例・施行規則施行 療育的支援事業（にこにこきっず 1）、専門相談開始【相談】 保険診療開始【医療】 岡崎市福祉事業団指定管理受託（～令和 3 年）【支援】 児童発達支援（定員 80 名 親子通所「めばえ」・単独通所「わかば」・保育後療育「つばき」）・保育所等訪問「あおい」・わかば相談支援事業所開始【支援】
平成 30 年 4 月	こども発達センター東棟（体育館棟・既存部分）改修工事着工 児童発達支援（並行通園「こだま」）開始【支援】
平成 31 年 1 月	こども発達センター東棟（体育館棟・既存部分）改修工事竣工
平成 31 年 2 月	こども発達センター東棟（体育館棟・既存部分）開所
平成 31 年 3 月	児童発達支援（並行通園「こだま」）終了【支援】
平成 31 年 4 月	就学相談開始【相談】 啓発事業（就学）開始【医療】 日中一時支援事業（定員 10 名「たんぼぼ」）開始【支援】
令和 2 年 4 月	福祉部からこども部へ所管変更【相談】 総合子育て支援センターから療育的支援事業（にこにこきっず 2）・就園相談を事業移管。療育的支援事業（にこにこきっず 2）を事業委託し実施【相談】
令和 3 年 4 月	療育的支援事業（にこにこきっず 1）を保健部へ事業移管【相談】 わかば相談支援事業所廃止、福祉の村相談支援事業所の分室に統合【支援】 岡崎市福祉事業団指定管理受託（～令和 8 年）【支援】
令和 4 年 4 月	啓発事業（特性）開始【医療】 児童発達支援（1 歳児クラス「めばえ」）開始【支援】
令和 5 年 2 月	医療的ケア児室整備【支援】

※ 【】は各センターを省略して表記

3 建築概要

所在地 愛知県岡崎市欠町字清水田6番地4
敷地面積 8,560.82 m²

	こども発達センター西棟	こども発達センター東棟（体育館棟）
構造	鉄筋コンクリート造(耐火建築物)	鉄筋コンクリート造（一部鉄筋鉄骨コンクリート造）
階数	地上3階、塔屋1階	地上1階、一部地上2階
各床面積	1階：1,456.27 m ² 、2階：1,257.18 m ² 3階：1,362.05 m ² 、R階：15.36 m ² 計：4,090.86 m ² (建築面積：3,304.17 m ²)	1,398.79 m ² （建築面積：1,415.6 m ² ）
最高の高さ	12.293m	
昇降機設備	26人乗り：1台、11人乗り：2台	
駐車等台数	駐車場：46台、駐輪場：6台	駐車場：20台、駐輪場：10台

4 事業概要

岡崎市こども発達センターの整備は、民間の資金とノウハウを活用し効果的な公共サービスの提供を図るPFI手法で整備・運営している。全体的な運営・維持管理はSPC（特別目的会社）が行い、具体的な事業は、異なる事業主体が協力し事業を行う。なお、こども発達センター東棟（体育館棟）は有料施設として利用が可能である。

岡崎市こども発達センター（すくも）			
名称	こども発達相談センター	こども発達医療センター	こども発達支援センター
場所	3階	3階	1・2階
運営主体	岡崎市こども部	岡崎市民病院 (発達小児科・児童精神科・リハビリテーション科)	岡崎市福祉事業団 (指定管理)
事業内容	療育的支援事業 (にこにこきっず2) 専門相談・就園相談・就学時相談・就学後支援・電話相談・福祉サービス等個別相談・巡回支援・訪問支援 障がい児等療育支援事業	診察及び発達検査 アセスメント・グループ (はじめてさんの会) 個別リハビリテーション (ST言語/OT作業/CP心理) 集団リハビリテーション (年長グループ)	児童発達支援(めばえ、わかば、つばさ) 保育所等訪問支援(あおい) 日中一時支援事業(たんぽぽ) 障がい児相談支援事業 (こども発達支援センター・福祉の村相談支援事業所 分室) 保護者・きょうだいへの支援 地域の事業所支援者支援
対象	6歳まで(未就学児)の発達に心配のある子ども及びその保護者		
	発達障がい・知的障がい ※18歳までは教育機関等と連携して相談対応	発達障がい(知的障がいなし・軽度)	発達障がい・知的障がい

5 職員体制

(単位：人)

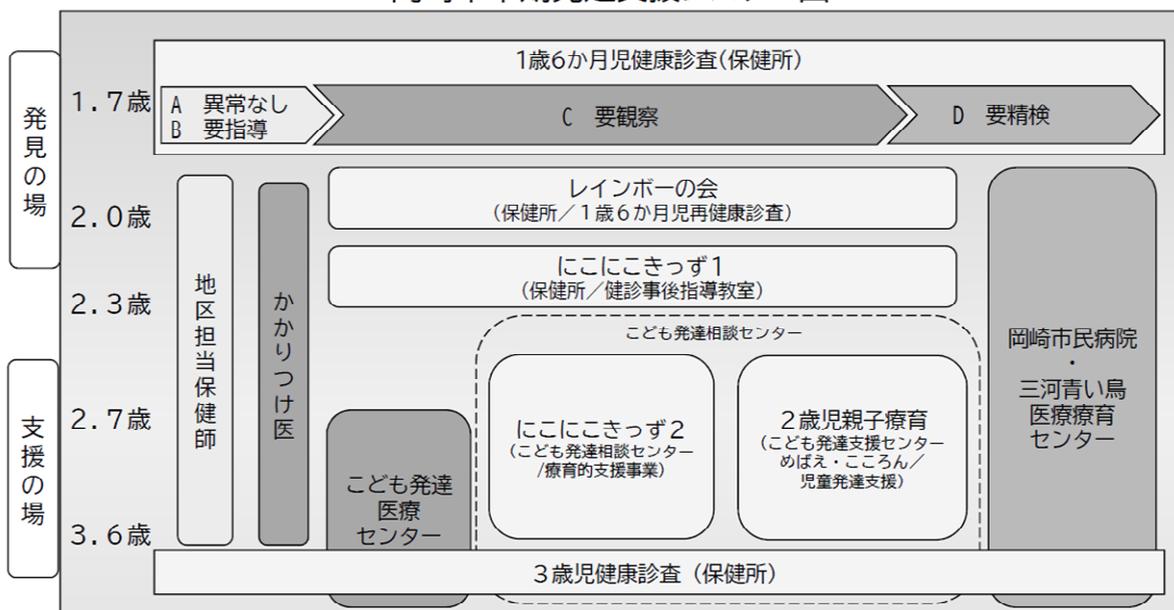
所属	職種	正規職員	非常勤職員	合計
こども発達 相談センター	保健師	1	1	17
	保育士	1	2	
	公認心理師・臨床心理士	3	1	
	社会福祉士	0	1	
	精神保健福祉士	1	0	
	教諭	2	0	
	事務職	4	0	
こども発達 医療センター	医師	3	7	28
	看護師	2	2	
	保育士	1	2	
	公認心理師・臨床心理士	2	1	
	作業療法士	2	0	
	言語聴覚士	2	0	
	事務職	0	1	
	医療秘書	0	1	
	受付	2	0	
こども発達 支援センター	保育士	22	28	84
	児童発達支援管理責任者	2	0	
	児童指導員(社会福祉士・介護福祉士)	1	3	
	看護師	2	1	
	公認心理師・臨床心理士	2	4	
	理学療法士	0	1	
	言語聴覚士	1	0	
	訪問支援員	1	0	
	管理栄養士	1	0	
	事務職	1	2	
	調理員	0	10	
	運転手	0	1	
	相談支援専門員	1	0	
SPC	運営責任者	1	0	12
	受付	1	3	
	保育士	1	4	
	維持管理責任者	1	0	
	維持管理職員	1	0	
合計		65	76	141

令和5年3月31日現在

6 岡崎市の発達に心配のある子どもの早期発達支援システム

岡崎市では、発達に心配のある子どもが1歳6か月児健康診査後の早期から就学するまで、地域でスムーズに支援を受けられるよう早期支援システムを構築し、保健・福祉・保育・教育等の関係機関と継続的に協議しシステムの見直しを図っている。令和2年度の早期支援システム検討部会で課題の洗い出しを行い、早期発見や支援体制の拡充を図るために、令和3年度から新たなシステムの運用を開始した。令和3年度 of 主な変更点としては、保健部健康増進課で「レインボーの会」（1歳6か月児再健康診査）が始まるとともに、令和2年度まで子ども発達相談センターの療育的支援事業として実施していた「にこにこきっず1」を健診事後指導教室として事業移管した。「レインボーの会」・「にこにこきっず1」の利用を通して、早期にその子どもに合った相談先や支援につなぐことを目指している。

岡崎市早期発達支援システム図



第2 こども発達相談センター

1 療育的支援事業（にこにこきっず2）

(1) 目的

小集団において発達の遅れや特性の気づきや理解を促し、早期に適切な支援に結び付けるとともに、集団活動の機会が増える前に社会性を育む場を専門職のもとで提供する。

(2) 対象

にこにこきっず1（健康増進課事業・健診事後教室）や専門相談等から案内された当該年度に満3歳を迎える、次のア・イに該当する子どもとその保護者

ア 集団生活（就園を想定）の前に、社会性を育む体験が必要とされている。

イ 発達に関する育児相談や就園相談等で利用が必要と判断されている。

(3) 従事者

保健師、保育士、言語聴覚士、臨床心理士、教諭

(4) 実施状況

ア 年度別実績（総数・会場）

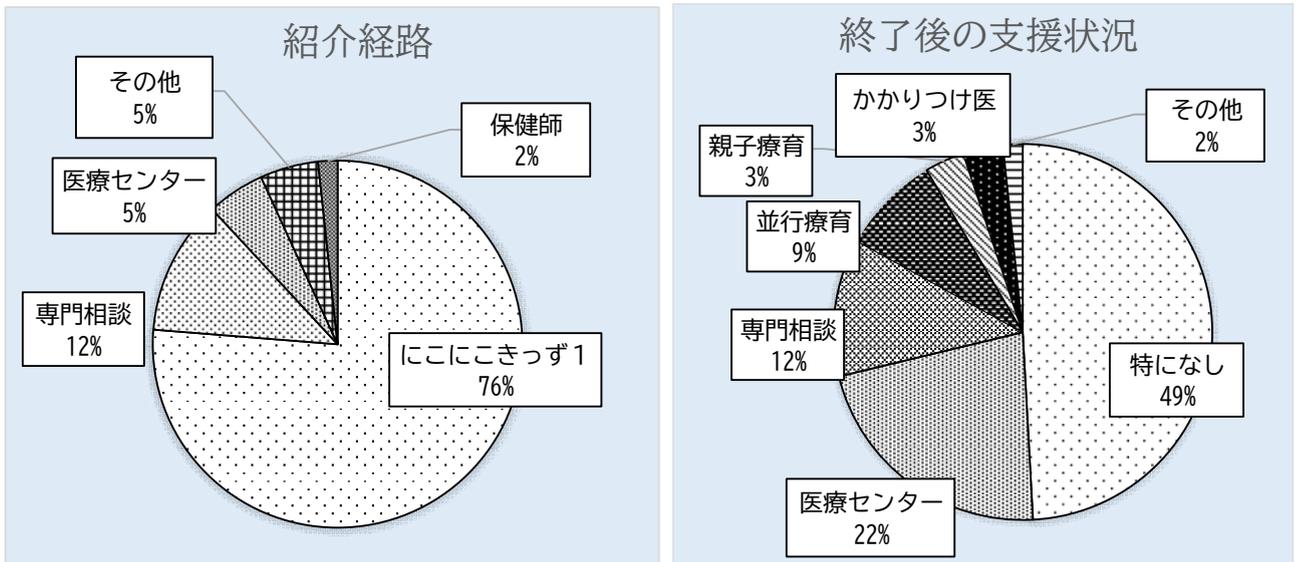
（単位：人）

区分		R2		R3		R4	
		実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
総数		71	690	59	1,113	59	1,211
会場名	こども発達センター	26	265	16	327	18	327
	岡崎げんき館	20	202	15	220	14	276
	六ツ美南保育園	-	-	11	224	10	220
	きらキッズ（こころん）	25	223	17	342	17	388

※ 令和2年度から、実施主体を総合子育て支援センターからこども発達相談センターへ移管し、委託事業として実施

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響：令和2年4、5月は事業を中止し電話による個別フォローを実施。令和3年1月は全会場1回ずつ中止

イ 令和4年度 紹介経路・終了後の支援状況



(5) 考察

令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、風邪症状があれば欠席、アルコール消毒や検温など感染対策をしながらの実施となり、令和4年度も引き続き感染対策をしながらの実施となった。

令和4年度は令和3年度と同様、人数調整を行い、実人数、延べ人数の大きな変化はなく安定して行うことができた。

終了後の支援状況では、約半数が次の支援先につながり就園後も支援が必要な子どもには支援が切れ目なくつながる形となった。

2 専門相談

(1) 目的

発達に心配のある子どもと保護者に対し、子どもの観察及び将来を見据えて成長発達のために必要な助言・相談を行うことで、早期に必要な支援に結び付ける。

(2) 対象

主に発達に心配のある就学前の子とその保護者

(3) 従事者

公認心理師、保健師

(4) 実施状況

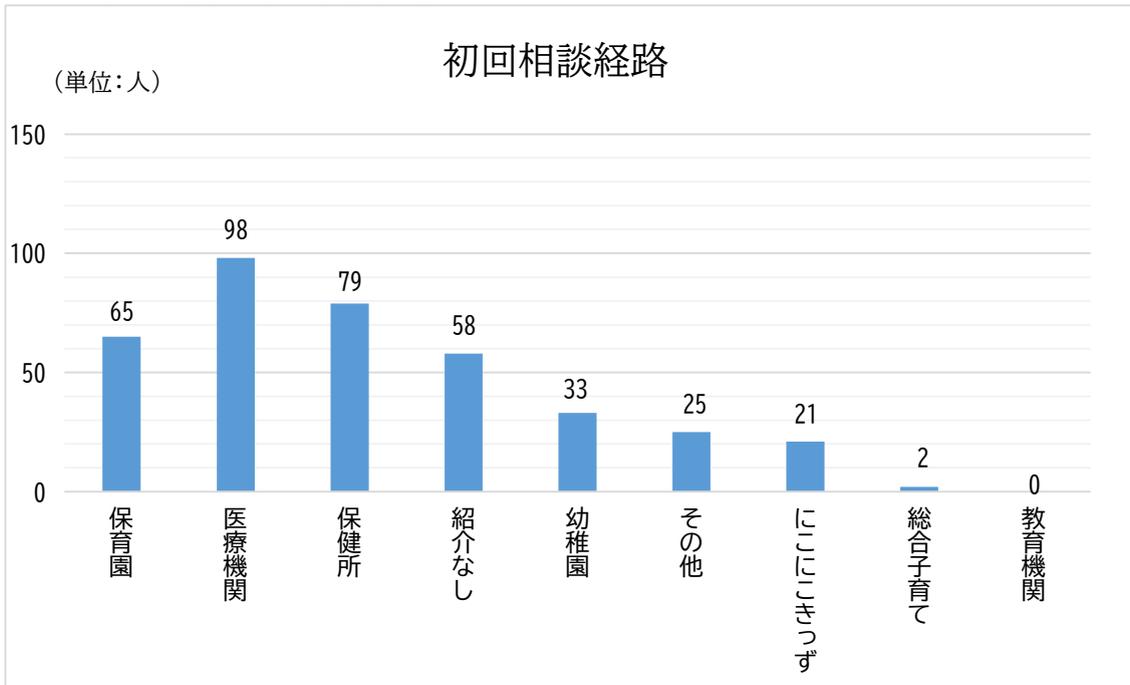
ア 年度別実績（総数・居住地・回数・初回年齢別内訳）

（単位：人）

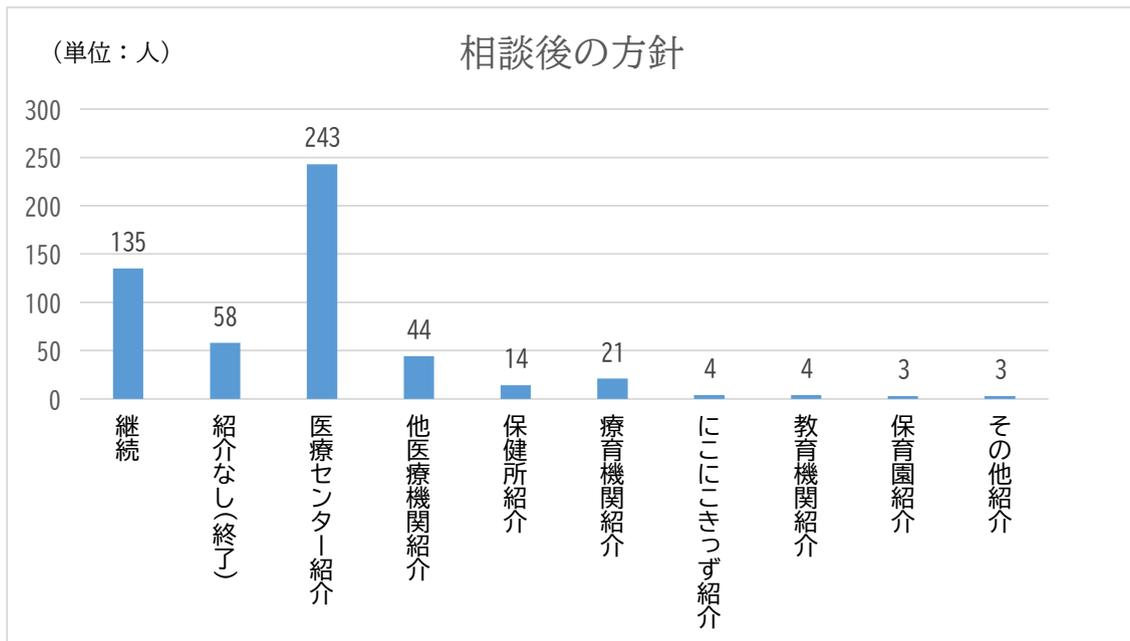
区分		H30	R1	R2	R3	R4
総数		469	416	556	601	529
居住地	岡崎市	460	405	534	563	502
	幸田町	9	11	18	35	26
	その他・不明	0	0	4	3	1
相談回数	初回	395	350	449	445	381
	継続	74	66	107	156	148
初回年齢別内訳	～1歳6か月	0	0	3	3	0
	1歳7か月～2歳	43	53	55	16	12
	2歳1か月～2歳6か月	92	71	114	86	49
	2歳7か月～3歳	67	45	72	83	76
	3歳1か月～4歳	77	77	93	115	128
	4歳1か月～5歳	49	57	63	88	56
	5歳1か月～6歳	62	38	44	48	50
	6歳1か月～7歳	4	7	5	6	10
	7歳1か月～	1	2	0	0	0
	計	395	350	449	445	381
初回年齢別内訳	1歳					9
	2歳					107
	3歳					139
	4歳					60
	5歳					54
	6歳～					12
	計					381

※ 初回年齢別内訳は、令和4年度から変更

イ 令和4年度 初回相談経路



ウ 令和4年度 相談後の方針



(5) 考察

初回来所時年齢は2歳6か月以下の相談件数が大きく減少した。背景として、令和3年度からレインボーの会が開始し、2歳でレインボーの会、2歳2～4か月頃ににこにこきつず1となったため、こども発達相談センターにつながる時期が遅くなっていることが要因と考えられる。また、就園前後での相談が増えている。

初回相談経路は、医療機関からが98件(26%)、保育園・幼稚園を合わせて98件(26%)、保健所からが79件(21%)となっており、関係機関から紹介される割合が高い一方、紹介ではなく保護者自らホームページ等で探して相談につながる場合は58件(15%)であった。

専門相談後の方針としては、医療センターが 243 件（46%）、継続相談が 135 件（26%）で、こども発達医療センターへ紹介するか、こども発達相談センターで期間を空けて継続して経過をみていく相談が7割以上を占めている。

3 電話相談

(1) 目的

発達に心配のある子どもの保護者等からの電話に対して必要な助言・相談を行い、早期に必要な支援に結び付ける。

(2) 対象

主に発達に心配のある就学前の子どもとその保護者

(3) 従事者

保健師、保育士、公認心理師、精神保健福祉士等

(4) 実施状況

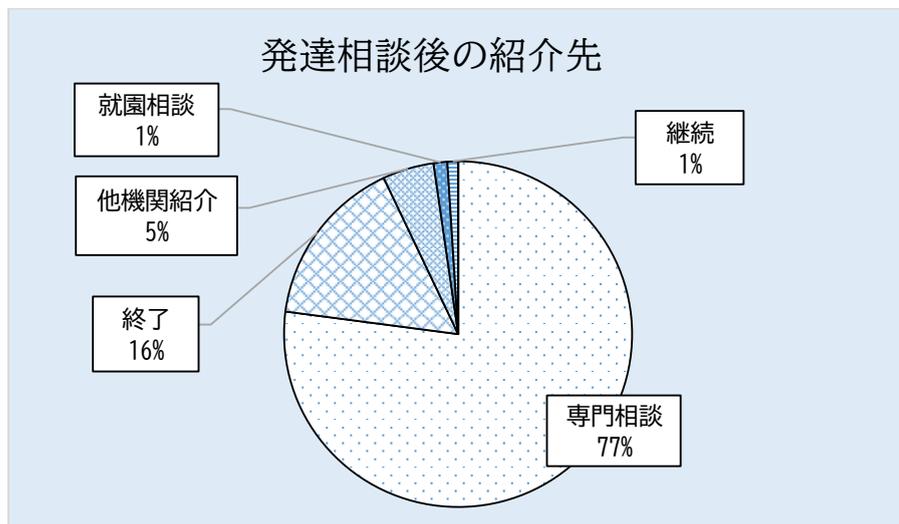
ア 年度別実績（発達相談数・居住地・年齢） （単位：人）

区分		H30	R1	R2	R3	R4
発達相談数 (総数)		282 (554)	482 (745)	657 (1,499)	754 (1,427)	712 (1,512)
居住地	岡崎市	269	450	609	702	672
	幸田町	9	16	29	35	20
	その他・不明	4	16	19	17	20
年齢	0歳	0	2	0	4	0
	1歳	29	78	72	42	44
	2歳	87	140	246	219	171
	3歳	54	92	130	215	212
	4歳	42	80	98	142	121
	5歳	35	58	54	70	91
	6歳	16	11	15	15	27
	7歳以上 不明	19 0	21 0	42 0	47 0	44 2

※ 居住地・年齢は発達相談数の再掲

※ (総数)のうち、発達相談数以外は、事業などの問合せ数や個別ケース調整数

イ 令和4年度 発達相談後の紹介先



(5) 考察

発達に関する電話相談数は、令和3年度からは42件減少した。しかし、令和3年度は相談件数が多かったため、全体的な経年変化で見るとおおむね増加している。1歳児は令和3年度とほぼ変わらず44件で一定数いるが、令和4年度の2歳児の相談件数は48件減少した。背景として、令和3年度から1歳6か月児健診で要観察になった子どもはレインボーの会を案内しているため、レインボーの会がシステムとして安定してきたと考えられる。

全体的にみると2～4歳児の相談件数が多く、昨年と比べ5歳児は21件、6歳児は12件の増加がみられた。全体に相談の年齢が上がっていることが見てとれる。

4 就園相談

(1) 目的

発達に心配のある子どもの保護者等に対し、就園に向けてのシステムを説明し就園先について助言することで、適切な就園に結び付ける。

(2) 対象

発達に心配のある就園前の子どもの保護者

(3) 従事者

保育士

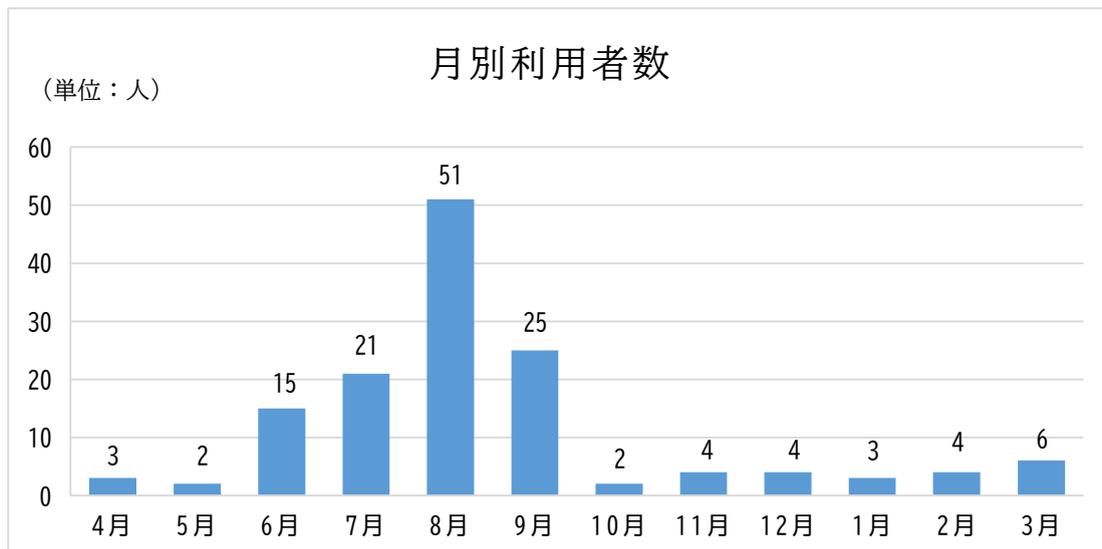
(4) 実施状況

ア 年度別実績（総数・居住地・回数・年齢） （単位：人）

区分		R2	R3	R4
総数（延べ相談件数）		190	157	140
居住地	岡崎市	190	157	140
	幸田町	0	0	0
回数	初回	104	150	139
	継続	86	7	1

※ 令和2年度から、総合子育て支援センターからこども発達相談センターへ事業を移管

イ 令和4年度 月別利用者数



(5) 考察

昨年度に引き続き、就園相談に来所していただくだけでなく、専門相談に訪れた保護者の同意を得て園と情報共有する等、対応方法を工夫した。また、見学や申込み時に、園が保護者から療育やにこにこきっず1等何らかの支援の対象であったことを把握し、保護者に就園相談を勧奨するケースが増加している。そのような場合は、事業担当者が療育の場等へ出向いて就園相談を実施する等、保護者の負担や利便性を考慮して実施した。今後も対象の子どもがスムーズに園生活を送れるよう、保護者への相談に対応していくとともに、必要なケースは就園後支援体制検討会議につなげ、適切な就園に向けて関係機関と連携していきたい。

5 就学時相談・就学後支援

(1) 目的

就学後の小学校において子どもの特性に応じた配慮や支援が円滑に行われるよう、就学に向けて教育相談を行う。また、就学後の状況を把握し、学習等の学校生活が安定するように保護者・子どもへ支援を行う。

(2) 対象 ※ 次のア、イともに該当すること

ア 就学時相談：こども発達医療センターから、保護者の了解を得て紹介された年長児

イ 就学後支援：こども発達相談センターで就学の相談を行い、保護者とともに作成した「サポート情報」を小学校に提供した小学校3年生までの子ども

(3) 従事者

教諭

(4) 事業内容

ア 入学前に就学相談を行う。

(ア) こども発達医療センターからの情報を基に、就学に関する相談を行う。

(イ) 保護者とともに就学後「サポート情報」作成する。

(ウ) 「サポート情報」を学校に届け、説明を行う。

イ 入学後、就学後支援として、保護者への電話相談及び学校訪問を行い、子どもの状況を観察・把握しつつ、保護者・子どもを中心に支援する。

(ア) 保護者へ生活状況等に関するアンケートを実施し、希望する保護者へ電話相談を実施する。

(イ) 小学校に対して訪問希望日調査・事前アンケートを行い、学校を訪問し子どもの観察を行う。

(5) 実施状況

ア 就学時相談 年度別実績

(単位：人)

区分		H30	R1	R2	R3	R4
総数 (延べ人数)		21 (21)	71 (76)	95 (104)	86 (87)	67 (67)
居住地	岡崎市	21	63	94	84	66
	幸田町	0	8	1	2	1
在園先	保育園・こども園	14	42	52	42	45
	幼稚園	7	29	43	44	21
	その他	0	0	0	0	1

イ 就学後支援（学校訪問による子どもの観察、保護者への電話相談）年度別実績

年度	対象	時期	対応	対象数	備考
R1	○新就学児 H30年度 年長児	R1. 5~7	学校への訪問	26件 医療センター紹介：21件 在学児：5件	
R2	○新就学児 R1年度 年長児	R2. 5~7	電話による聞き取り	保護者：65件/69件 担 任：68件/69件	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため訪問中止
R3	小学校 1~3年	R3. 4~6	学校への訪問・観察	182件	転校等で回答できないケースあり
			担任へのアンケート※1	1年：94件、2年：68件 3年：20件	
	保護者 新就学児	R4. 2	保護者へのアンケート ※2・子どもの実態調査 ・電話相談希望	回答数 51件/94件	
希望者への電話相談			電話相談希望数 16件/51件		
R4	小学校 1~3年	R4. 5~6	学校への訪問・観察	252件	○保護者への アンケート ・2年生まで拡大 ・年2回実施
			担任へのアンケート	1年：87件、2年：94件 3年：71件	
	保護者 1・2年	R4. 5~7	保護者へのアンケート ・子どもの実態調査 ・電話相談希望	108件/182件中	
			希望者への電話相談	8件/108件中	
		R5. 2	保護者へのアンケート ・子どもの実態調査 ・電話相談希望	117件/180件中	
			希望者への電話相談	15件/117件中	

※1 担任へのアンケート内容：教師指示理解程度、放課の過ごし方、級友関係、準備・片付け、学習など

※2 保護者へのアンケート内容：学校・家庭での困り感、相談先、利用機関、電話訪問の希望有無など

(6) 考察

就学時相談について、令和4年度は相談数が減少したが、保育園在籍者の件数は安定してきている反面、幼稚園在籍者の数が半数に減少した。就学後支援については、就学後、進級後の子どもの状態を5~6月に学校に出向き把握することにより、担任がこども発達相談センターでの「就学の相談」を受けた子どもであると明確に認識できた。担任が把握する4~5月当初の子どもの状態と、担任がそれ以後安定して子ども対応できているかは別物と考える必要がある。

6 福祉サービス等個別相談

(1) 目的

継続した療育の必要性がある子どもの保護者に対し、福祉サービスに関する情報提供や個々のニーズに応じた個別相談・支援を行う。

(2) 対象

こども発達センターを利用する就学前の子どもの保護者

(3) 従事者

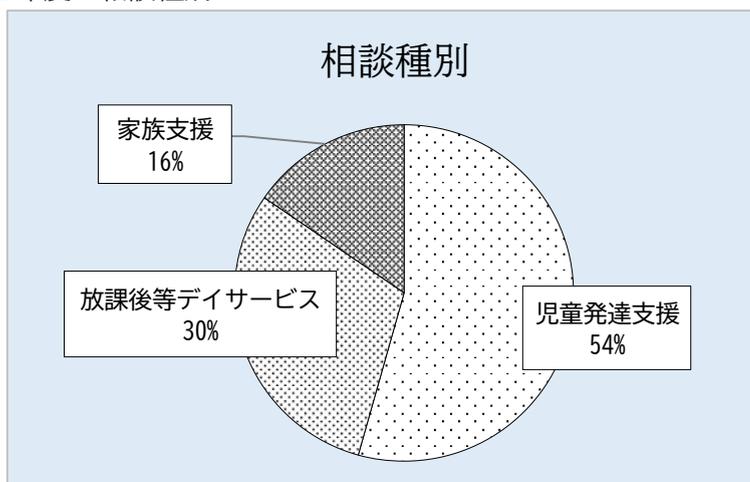
保健師、精神保健福祉士、社会福祉士

(4) 実施状況

ア 年度別実績（総数・相談種別・年齢） （単位：人）

区分		H30	R1	R2	R3	R4
総数		90	82	165	162	149
相談種別	児童発達支援	46	44	96	82	81
	放課後等デイサービス	27	29	52	60	45
	家族支援	17	9	17	20	23
年齢	1歳児	4	0	3	8	13
	2歳児	21	17	22	11	9
	年少児	24	15	39	41	29
	年中児	12	19	41	37	49
	年長児	28	31	58	64	47
	小学1年生	1	0	2	1	2

イ 令和4年度 相談種別



(5) 考察

相談人数・月別利用者数・相談種別とも、令和3年度と比べておおむね大きな変化は見られなかった。1歳児では、早期療育を勧められたことへの不安や戸惑いを抱えた保護者からの相談が増えており、保健師が対応の方法を伝え、見通しを持って2歳の再健診を案内するほか必要な支援につなげた。2歳児はレインボーの会やにこにこきっず1の利用により、相談件数が減少したと考えられる。なお、福祉サービスの情報提供に当たり、利用希望や支援の必要性と支

援体制（受け皿となる事業所の数や支援内容）のマッチングが難しい場合があり、今後現状の把握や分析が必要と考える。

7 巡回支援

(1) 目的

発達障がいと診断を受けた子ども及び発達に心配のある子どもの主な日中活動の場である園に対し、現状の把握や子ども発達相談センターの事業説明を行い、発達に心配のある子どもが豊かな園生活を送るための基盤づくりを推進する。

(2) 対象

岡崎市内の公私立保育園・公立認定こども園・私立幼稚園の支援者

※ 私立幼稚園は幸田町も含む

(3) 従事者

保健師、保育士、公認心理師、精神保健福祉士

(4) 実施状況

ア 年度別実績

(ア) 公私立保育園・公立認定こども園 (単位：回)

区分	R2	R3	R4
総数	110	109	64
公立保育園	68	67	38
私立保育園	36	36	23
公立認定こども園	6	6	3

※ 令和2年度から、総合子育て支援センターから子ども発達相談センターへ事業を移管

※ 令和2年度は各園年間2回ずつ巡回予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部電話で状況確認を実施

(イ) 私立幼稚園 (単位：回)

区分	H30	R1	R2	R3	R4	
総数	25	25	25	25	24	
所在地	岡崎市	22	22	22	22	21
	幸田町	3	3	3	3	3

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部書面で状況確認を実施

(5) 考察

令和4年度の公立保育園、私立保育園、公立認定こども園の巡回支援は、新型コロナウイルス感染症防止対策の影響で実施の見合わせや実施対象園の縮小を行ったため、実施回数が減少する結果となった。また、産休・育休による従事可能人員の減少により、実施に対して制限が生じたことも回数の減少に影響している。

私立幼稚園の巡回支援事業については、平成29年度から継続的に子ども発達相談センターの事業内容を周知することを目的として実施している。私立幼稚園が、活用可能なこども

発達相談センターの事業を理解し、利用の主旨や利用に関する手続を、対象児の保護者や園の職員に説明できることを目指してきた。令和5年度からは、私立幼稚園の巡回支援に関しては、園のニーズに合わせた形の支援に転換する。巡回支援を通じてさらなる連携を図り、園を支援することにより発達に心配のある子どもや保護者へのサポートにつながるよう努めていきたい。

8 訪問支援

(1) 目的

発達に心配のある子どもとそれにより具体的な困りごとを抱える支援者に対し、主に日中活動の場となる保育園等に出向き、現場で活かせる対応や支援の検討を行うことにより、保護者と支援者の協力関係を築きやすくし、発達に心配のある子どもと保護者の生活基盤づくりを推進する。

(2) 対象

岡崎市及び幸田町内にある保育園、幼稚園、認定こども園等の支援者及び施設を利用する発達に心配のある子と保護者

岡崎市在住の発達に心配のある子が通う他市町村にある施設の支援者

(3) 従事者

保健師、保育士、公認心理師、精神保健福祉士等

(4) 実施状況

ア 年度別実績（施設数・延べ人数・所在地・分類・年齢）（単位：か所、人）

区分		H30	R1	R2	R3	R4
施設数		9	10	7	13	11
延べ人数		14	27	15	16	19
所在地	岡崎市	14	27	14	16	18
	幸田町	0	0	1	0	0
	その他	-	-	-	-	1
分類	保育園・こども園	1	8	4	5	6
	幼稚園	13	19	11	11	12
	その他	-	-	-	-	1
年齢	1歳児	0	0	0	0	0
	2歳児	0	0	0	1	0
	年少児	4	7	8	4	3
	年中児	7	4	2	8	12
	年長児	3	16	5	3	4

※ 令和4年度から岡崎市、幸田町以外の市町村にある施設も支援対象としたため、所在地に「その他」の項目を追加

(5) 考察

令和4年度は、前年度から繰り越した2ケースのうち1ケースと令和4年度に依頼があった1ケースを、園と協議し中止した。新型コロナウイルス感染症防止対策の影響で、本事業の依頼自体少なかったが、初めて依頼を受ける園や、必要性を強く感じて複数回依頼を受ける園があった。実施施設数は令和3年度と比べ少なかったものの、本事業に対するニーズは高まっていると思われる。

また、新たな取組として、訪問した園で事例検討を行う形での支援を試みた。試行的に1回の支援で複数の対象者や参加者を募り実施したところ、園からも好評価が得られた。

9 地域啓発（研修・出前講座）

(1) 目的

支援者及び一般市民が、発達障がいに関する知識・理解を深め、発達障がいのある子どもが暮らしやすい地域づくりを推進する。

(2) 対象

発達に心配のある子どもや発達障がいのある子どもの保護者及び支援者、並びに一般市民

(3) 従事者

保健師、保育士、公認心理師、教諭等

(4) 実施状況

ア 支援者向け研修

(単位：人)

日程	名称等	内容	場所	参加者
4月18日	保健所勉強会	こども発達センターに関する説明、2歳児の発達	保健所	6
4月28日	現職教育研修	現職教育研修への参加	細川小学校	40
5月26日	燕ヶ丘保育園勉強会	早期発達支援システム及びこども発達センターの説明	燕ヶ丘保育園	16
7月25日	現職教育研修	不安定な児童が落ち着いて学校生活を送るために	六ツ美南部小学校	19
7月25日	現職教育研修	現職教育研修への参加	矢作西小学校	20
8月4日	現職教育研修	現職教育研修への参加	矢作南小学校	19
9月29日	障がい者基幹相談支援センター研修会	こども発達センター及び早期発達支援システムの説明、こども発達センター見学	友愛の家	21
10月13日	障がい児通所連絡会主催研修	気になる子どもの気持ちと向き合う方法	(オンライン開催)	58
11月2日	保健所勉強会	発達検査、地区フォロー、療育について	保健所	13
1月5日	ブロック園長会	こども発達センターの概要	こども発達相談センター	15
1月6日	ブロック園長会	こども発達センターの概要	こども発達相談センター	15
1月10日	ブロック園長会	こども発達センターの概要	こども発達相談センター	15
1月11日	ブロック園長会	こども発達センターの概要	こども発達相談センター	15
1月12日	ブロック園長会	こども発達センターの概要	こども発達相談センター	15
2月17日	ファミリー・サポート・センター講習会	支援や配慮の必要な子どもの預かりについて	市役所西庁舎501号室	23

イ 市民向け研修

(単位：人)

日程	対象	内容	場所	参加者
5月29日	親子療育施設利用児の保護者	就園の説明	こころん	20
8月1日	親子療育施設利用児の保護者	就園の説明	こども発達支援センター	40

ウ 出前講座

(単位：人)

日程	対象	内容	場所	参加者
11月9日	就学時健診に来所した保護者	入学準備に必要な心構え	根石小学校	105
11月10日	就学時健診に来所した保護者	入学準備に必要な心構え	矢作北小学校	130
11月16日	就学時健診に来所した保護者	入学準備に必要な心構え	北野小学校	95

(5) 考察

地域啓発活動は、新型コロナウイルス感染症防止対策の影響で、市民向けの出前講座の依頼は少なかった。支援者向けの研修は、感染症拡大防止対策をしながら実施した。令和4年度は相談支援事業所や障がい児通所事業所の職員向けの研修等、今まで依頼を受けたことのない機関からの依頼もあり、こども発達センターや早期発達支援システムについての周知をすることができた。令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行するため、出前講座を始め、市民向けの地域啓発活動に力を入れていきたい。

10 各種会議

名称	目的	参加機関	実績(回数・日程・内容等)
岡崎市こども発達センター関係機関連絡会議 ※1	関係機関と発達センターの連携、地域支援のネットワーク構築と地域の支援力向上	岡崎市医師会、岡崎歯科医師会、学識経験者、相談支援事業所、児童発達支援事業所、三河青い鳥医療療育センター、西三河福祉相談センター、私立幼稚園協会、保育園連絡協議会、教育委員会（学校指導課）、障がい福祉課、健康増進課、保育課	第1回：7月19日 第2回：1月17日 こども発達センターの各事業及び早期支援システムの評価、関係機関との意見交換
早期発達支援システム作業部会	早期支援システムについて関連する機関の連携と、よりよい支援体制の構築に関する検討	児童発達支援事業所、相談支援事業所、教育委員会（学校指導課）、障がい福祉課、健康増進課、保育課	6月21日 早期発達支援システムの課題と見直し、令和3年度発達センター業務評価
早期発達支援システム作業部会分会（親子療育利用等検討会議）	発達に心配のある子どもの早期支援体制（新システム）の課題検討	児童発達支援事業所、健康増進課	12回 親子療育利用希望者の優先順位検討、療育支援事業等の運営上の検討、早期発達支援システムに関する検討・報告
早期発達支援システム作業部会分会（就園後支援体制検討会議）	こども発達センター利用児等の支援継続と、就園後のよりよい支援体制の検討	児童発達支援事業所、相談支援事業所、幸田町、健康増進課、保育課、総合子育て支援センター	第1回：8月4日 第2回：10月27日 第3回：11月7日 第4回：11月17日 わかば新規利用希望児及びわかばから就園等移行希望児の検討、情報共有
こども発達センターケース会議 ※2	こども発達センター利用児のケース検討	関係機関、こども発達センター	3回（延べ3ケース） 支援方針の検討やケースの情報共有、困難事例への協力体制の構築等

※1 岡崎市こども発達センター関係機関連絡会議は、令和2年度から懇談会として実施

※2 療育方針検討会議は、令和4年度から「こども発達センターケース会議」に変更

第3 こども発達医療センター

1 診療（初診・再診）

(1) 目的

ア 初診

対象となる子どもの心理・発達検査や遊びの様子を観察するとともに、保護者から家庭や園での様子を聴取する。

イ 再診

初診で収集した情報を基に、特性説明・診断告知・適切な支援プランの提案などを行う。また、定期診察が必要と判断された子どもに対し、発達の経過や生活の状況を観察・評価を行い、保護者に助言する。

(2) 対象

かかりつけ医及びこども発達相談センター専門相談の紹介を受けた、発達に心配のある就学前の子どもとその保護者

(3) 従事者

医師、看護師、保育士、公認心理師

(4) 実施状況

ア 年度別実績

(ア) 受診児数

(単位：人)

区分		H30	R1	R2	R3	R4
総数		7,015	6,941	7,629	7,109	6,982
受診児数	初診児数	436	529	472	391	431
	再診児延べ数	6,579	6,412	7,157	6,718	6,551

(イ) 初診児の居住地別内訳

(単位：人)

区分		H30	R1	R2	R3	R4
総数		436	529	472	391	431
居住地	岡崎市	403	467	434	361	400
	幸田町	33	62	38	30	31

(ウ) 再診児の居住地別内訳

(単位：人)

区分		H30	R1	R2	R3	R4
総数		6,579	6,412	7,157	6,718	6,551
居住地	岡崎市	6,091	5,766	6,507	6,177	6,109
	幸田町	488	646	650	541	442

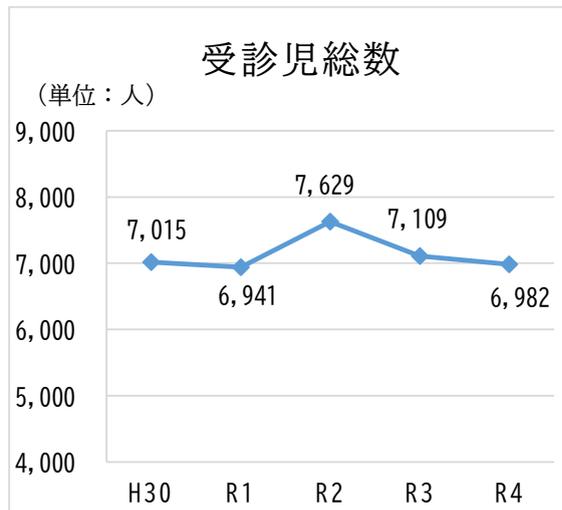
(エ) 予約から初診までの平均待機日数

(単位：日)

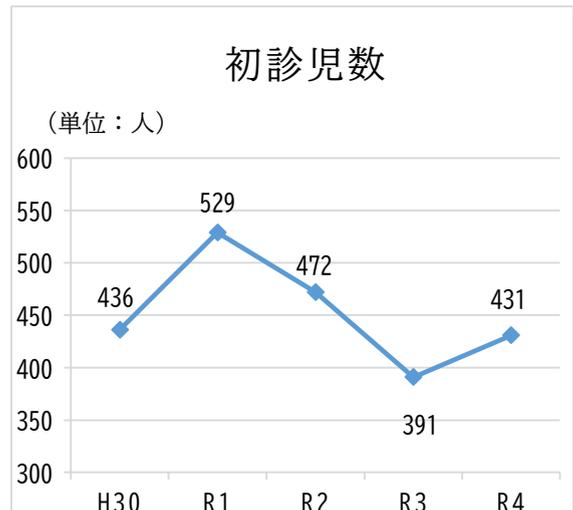
区分	H30	R1	R2	R3	R4
予約から初診までの平均日数	46	89	42	50	62

イ 年度別推移

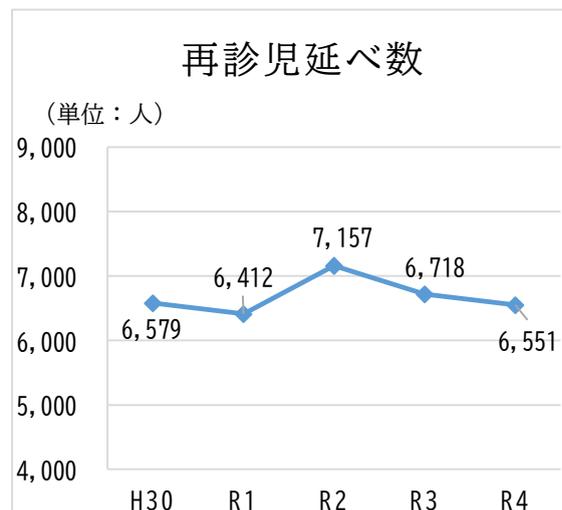
(ア) 受診児総数



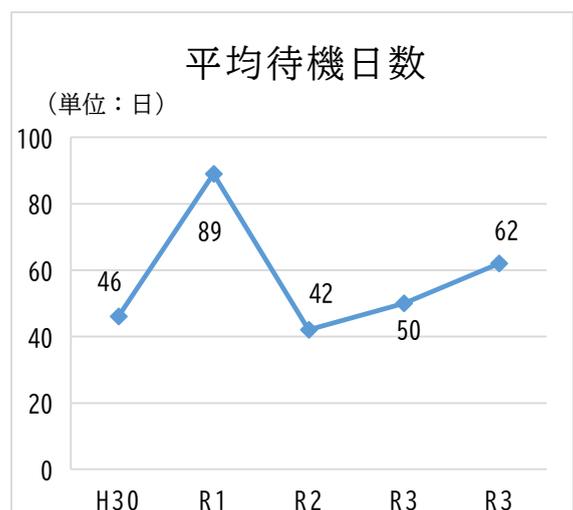
(イ) 初診児数



(ウ) 再診児延べ数



(エ) 平均待機日数



(5) 考察

こども発達医療センターの目標を「適切なタイミングで必要な支援の提供を行う」と掲げ、予約から初診までの平均待機日数を3か月以内にするように努めている。令和3年度にみられた新型コロナウイルス感染症によるキャンセルや救済措置の影響が減り、令和4年度の初診患者数は増加した。また、これにより平均待機日数は増加しているが、目標である3か月以内は維持できている。

今後も3か月以内の平均待機日数を維持し、効率的な診察枠の運用が可能となるよう定期的に見直しを図っていくことで、利用者へのサービス向上を目指したい。

2 アセスメント

(1) 目的

ア 発達検査

診断や支援方針の検討のため、必要に応じて医師の指示のもと公認心理師などが子どもの現在の発達段階について評価を行う。

イ はじめてさんの会

初診後、6人程度の小集団を設定し、集団場面の様子を観察・評価する。様々な専門職が同席し、ひとりの子どもを多角的に評価することで、より適切な支援方針を検討する。

(2) 対象

医師の指示に基づくケース

(3) 従事者

医師、公認心理師、言語聴覚士、作業療法士、保育士

(4) 実施状況

ア 年度別実績

(ア) 発達検査実施数 (単位：件)

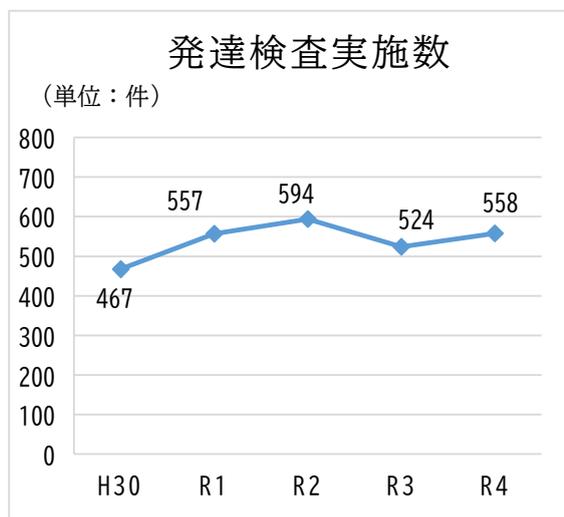
区分	H30	R1	R2	R3	R4
発達検査実施数	467	557	594	524	558

(イ) はじめてさんの会 (単位：人)

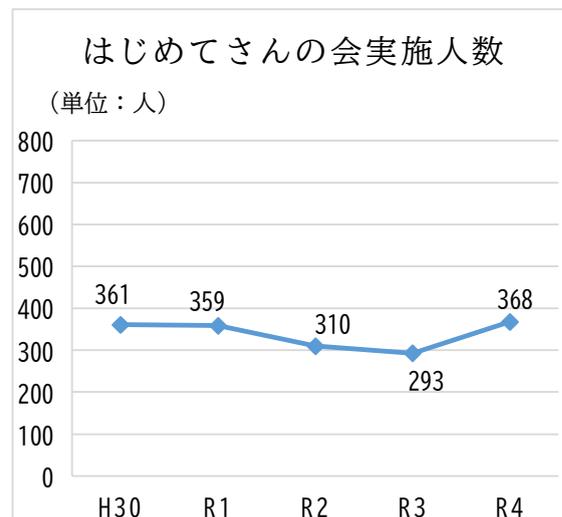
区分	H30	R1	R2	R3	R4
実施人数	361	359	310	293	368

イ 年度別推移

(ア) 発達検査実施数



(イ) はじめてさんの会実施人数



※ はじめてさんの会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により令和2年4月13日～5月25日、令和3年5月21日～6月21日、令和3年8月27日～9月27日の期間中止

(5) 考察

令和4年度は、初診患者数の増加により発達検査、はじめてさんの会ともに令和3年度と比べ増加となった。

3 支援

(1) 目的

1対1またはグループで医療専門職等が関わる中で「長所や特性の理解の促し」「問題行動の対応やアドバイス」を実施し、子どもの生活での適応と保護者の特性理解を促す。

(2) 対象

医師の指示に基づく、コミュニケーションや身体運動・感覚等に偏りがみられる子ども及び不安の強い保護者

(3) 従事者

言語聴覚士、作業療法士、公認心理師、保育士

(4) 実施状況

ア 年度別実績

(ア) 言語療法延べ実施数 (単位：件)

区分		H30	R1	R2	R3	R4
総数		2,387	1,955	2,476	1,968	1,709
居住地	岡崎市	2,217	1,710	2,190	1,758	1,594
	幸田町	170	245	286	210	115

(イ) 作業療法延べ実施数 (単位：件)

区分		H30	R1	R2	R3	R4
総数		753	1,354	1,581	1,367	1,441
居住地	岡崎市	703	1,241	1,473	1,310	1,385
	幸田町	50	113	108	57	56

(ウ) 心理面接延べ実施数 (単位：件)

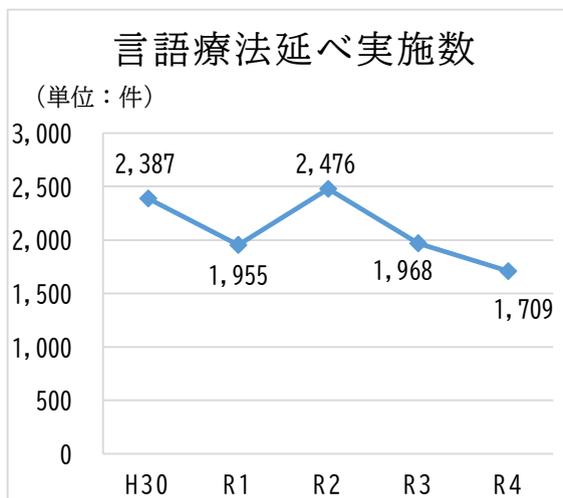
区分		H30	R1	R2	R3	R4
総数		733	474	496	417	244
居住地	岡崎市	684	439	461	382	223
	幸田町	49	35	35	35	21

(エ) グループ支援延べ実施数 (単位：件)

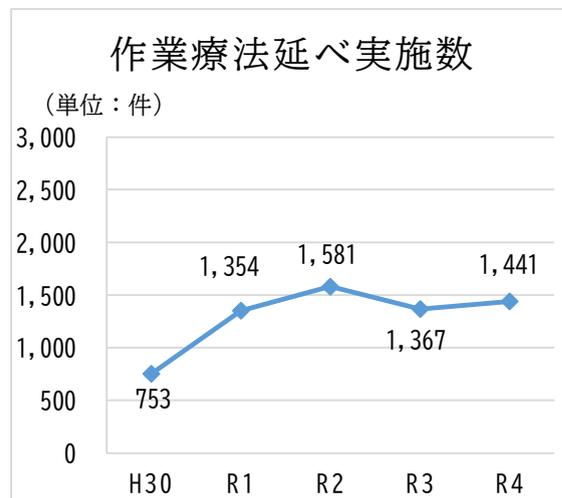
区分		H30	R1	R2	R3	R4
総数		535	354	170	414	323
居住地	岡崎市	502	330	170	392	300
	幸田町	33	24	0	23	23

イ 年度別推移

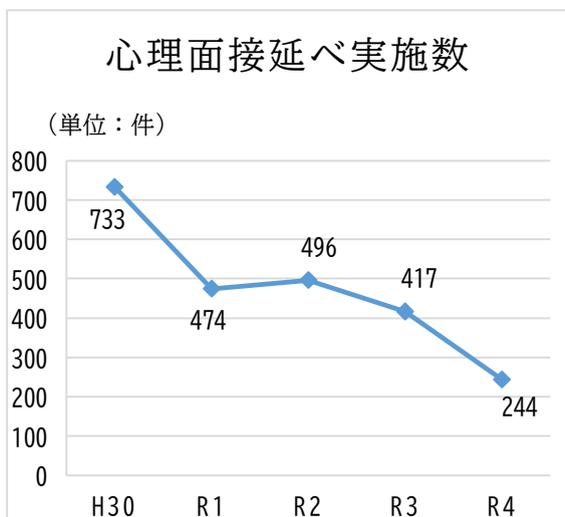
(ア) 言語療法延べ実施数



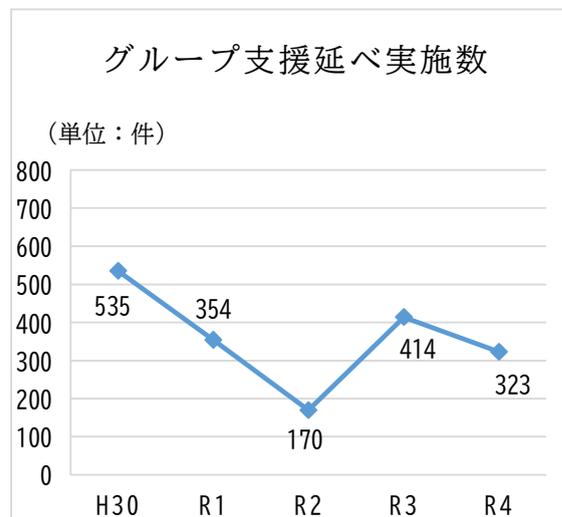
(イ) 作業療法延べ実施数



(ウ) 心理面接延べ実施数



(エ) グループ支援延べ実施数



※ グループ支援は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により令和2年4月1日～9月30日の期間中止

(5) 考察

言語療法及び心理面接の実施数は職員数の変動に伴い減少した。初診患者数の増加により、リハビリのニーズは更に高まっているが、職員1人当たりの実施数を増やすことや、啓発事業の拡大により、支援ニーズを満たす体制を整えた。

令和4年度は支援者向け研修会へのスタッフ派遣が増加し、より関係機関との連携を深めることができた。今後も地域のニーズに幅広く応えられるように、業務の幅を拡げていきたいと考えている。

4 啓発事業

(1) 目的

保護者向けの講演会を実施し、子どもの特性理解の促進や、子育ての上で生じる困難感の軽減を図る。

(2) 対象

医療センター利用中の年長児の保護者

(3) 従事者

言語聴覚士、公認心理師、教諭（こども発達相談センター）

(4) 実施状況

ア 年度別実績

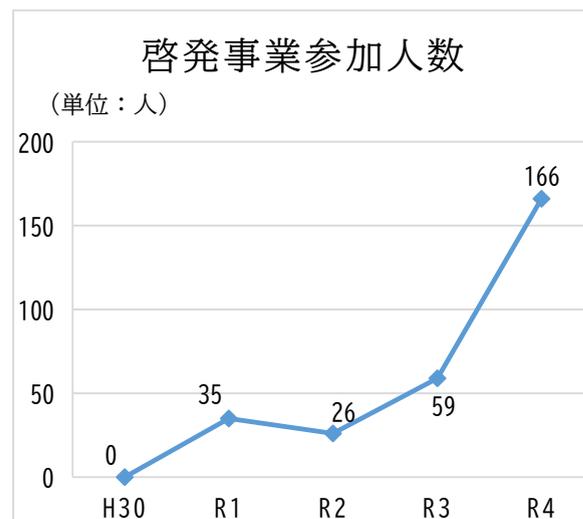
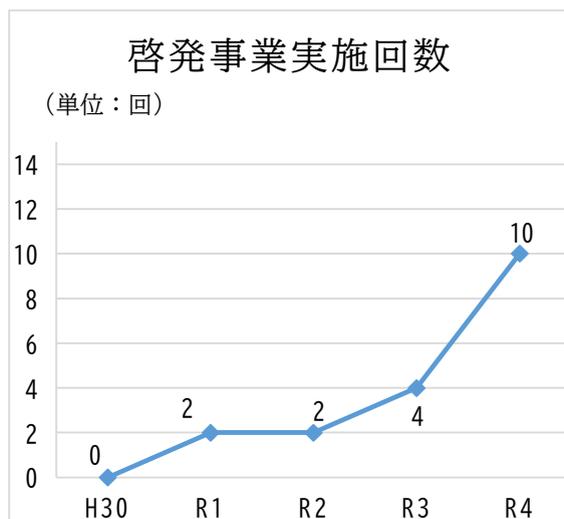
(ア) 啓発実施回数と参加人数

(単位：回、人)

区分	H30	R1	R2	R3	R4
実施回数	0	2	2	4	10
参加人数	0	35	26	59	166

イ 年度別推移

(ア) 啓発事業実施回数と参加人数



(5) 考察

過去に実施しているテーマ「就学に向けた相談の仕方・引継ぎの仕方」に加え、「発達障害ガイダンス」を実施。実施回数、人数ともに増加した。単発で参加できるため、個別支援に比べ気軽に参加しやすく、毎回ほとんどの枠が埋まっている。また、個別支援が終了したケースや、来院頻度が少ないケースの保護者が情報収集できる場ともなっており、切れ目のない支援を提供する役割を担うことができた。

5 その他の事業

(1) 支援者向け研修

日程	名称等	内容
6月30日	こども部 園保健会	脳の働きから見た幼保園時代の重要性 －3つ子の魂 百まで－
7月4日	主任ブロック会議 南ブロック	こども発達センター概要
7月5日	主任ブロック会議 東ブロック	こども発達センター概要
7月6日	主任ブロック会議 西ブロック	こども発達センター概要
7月11日	主任ブロック会議 中ブロック	こども発達センター概要
7月12日	主任ブロック会議 北ブロック	こども発達センター概要
7月27日	教育委員会 教師力アップセミナー	脳の働きから見た発達障がい児の理解 と支援
8月29日	北中学校現職教員研修	脳の働きから見た発達障がい児の理解 と支援
9月1日	広幡小学校現職教員研修	脳の働きから見た発達障がい児の理解 と支援
11月13日	愛知県保険医協会 三河地区講演会	発達障害の理解と支援 －社会問題化の予防－
12月23日	医師事務作業補助研究会 医師事務作業補助講習会	「難しい医師」の理解と対策
1月5日	園長ブロック会議 南ブロック	こども発達センター概要
1月6日	園長ブロック会議 東ブロック	こども発達センター概要
1月10日	園長ブロック会議 西ブロック	こども発達センター概要
1月11日	園長ブロック会議 中ブロック	こども発達センター概要
1月12日	園長ブロック会議 北ブロック	こども発達センター概要
1月19日	安城市教育委員会 安城市保健大会	特性保有児の理解と支援
1月20日	静岡県立こども病院 病院講演会	特性を持つ子どもの理解と支援
3月11日	愛知県保険医協会 三河地区講演会	エリートと発達障害

(2) 講演会（講師）

日程	名称等	内容	場所
11月25日	子育て教室講演会	脳の働きからみた子育てハッピー アドバイス 講師：医師 早川 文雄	あさひこ幼稚園
1月30日	こども発達支援 センター 父母講座	発達に凸凹のあるお子さんを育てる 上で大切なこと 講師：医師 福本 由紀子	こども発達支援 センター
2月2日	こども発達支援 センター 父母講座	発達に凸凹のあるお子さんを育てる 上で大切なこと 講師：医師 福本 由紀子	こども発達支援 センター

(3) 講師派遣

日程	名称等	内容	講師
9月7日	発達フォロー協力 医検討会	こども発達医療センター 統計報告と今後の課題	医師 福本 由紀子
3月1日	発達フォロー協力 医検討会	発達障害臨床における課題 ～症例報告を通して～	医師 福本 由紀子

(4) 実習生受入れ

日程	学校名等	内容	人数
①5月9日～6月17日 ②7月4日～8月12日	愛知学院大学健康科学科 言語聴覚士コース	言語聴覚士臨床実習	2
①1月30日～2月3日 ②2月27日～3月3日	名古屋医健スポーツ専門学校 作業療法科	臨床実習 I	2

第4 こども発達支援センター

1 児童発達支援事業【単独通所(わかば)・親子通所(めばえ)・保育後療育(つばさ)】

(1) 目的

心身の発達に遅れや心配のある子どもに、日常生活における適切な習慣を確立するための基本的な動作の指導、社会生活への適応性を高めるような知識技能の付与、集団生活への適応訓練などを行う。

ア 単独通所(わかば)

心身の発達に心配のある子どもに対し、小集団の中で生活習慣や人との接し方などを学ぶための療育を行う。

イ 親子通所(めばえ)

心身の発達に心配のある子ども及びその保護者に対し、ともに通所して、遊びや生活を通して発達を促す療育を行う。

ウ 保育後療育(つばさ)

地域の保育園・幼稚園などに通う子どもが、集団に適応し楽しく園生活を送れるよう、降園後に通所し、専門職が個々の発達課題に対して小集団療育を行う。

(2) 対象

ア 単独通所(わかば)

岡崎市・幸田町在住で心身の発達の遅れや心配のある3歳児～就学前の子ども

イ 親子通所(めばえ)

岡崎市・幸田町在住で心身の発達の遅れや心配のある0歳～おおむね3歳の子ども

ウ 保育後療育(つばさ)

岡崎市、幸田町在住で地域の保育園・幼稚園などに通い、園生活に伴って療育支援が必要な3歳児～就学前の子ども

(3) 従事者

保育士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等

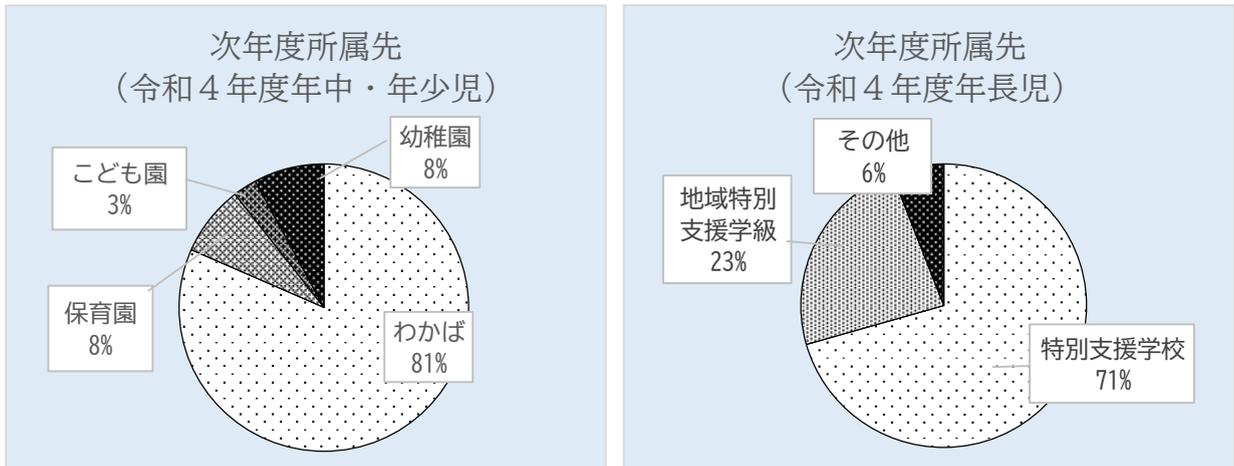
(4) 実施状況

ア 単独通所(わかば)

(ア) 年度別実績(登録者数・居住地・年齢) (単位:人)

区分		H30	R1	R2	R3	R4
登録者数		52	52	52	53	57
居住地	岡崎市	49	50	49	48	50
	幸田町	3	2	3	5	7
年齢	年少児	16	23	17	12	25
	年中児	23	13	22	18	15
	年長児	13	16	13	23	17

(1) 令和4年度 単独通所（わかば）を利用している子どもの次年度所属先

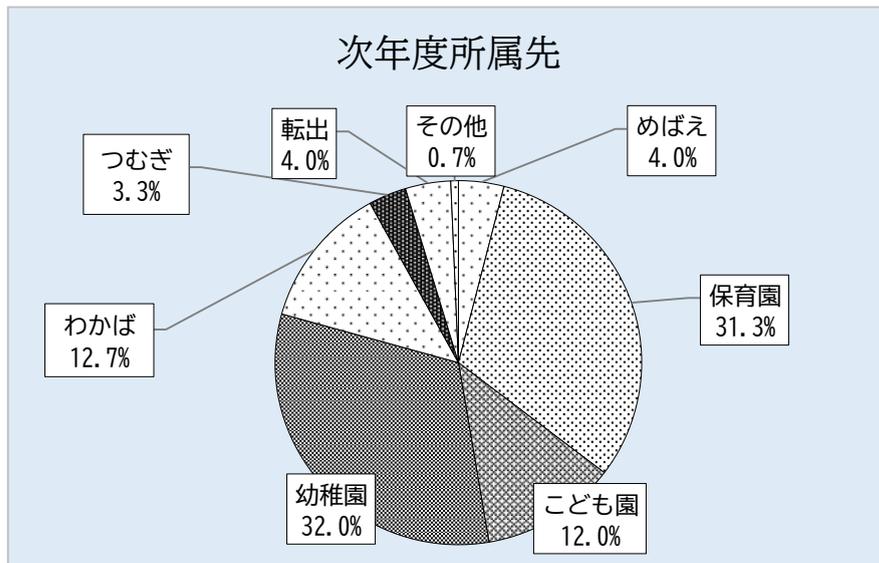


イ 親子通所（めばえ）

(7) 年度別実績（登録者数・居住地・年齢） (単位：人)

区分		H30	R1	R2	R3	R4
登録者数		131	151	128	142	150
居住地	岡崎市	115	131	115	130	138
	幸田町	16	20	13	12	12
年齢	1歳児	8	0	1	0	7
	2歳児	118	136	114	142	141
	年少児	5	15	13	0	2

(1) 令和4年度 親子通所（めばえ）を利用している子どもの次年度所属先



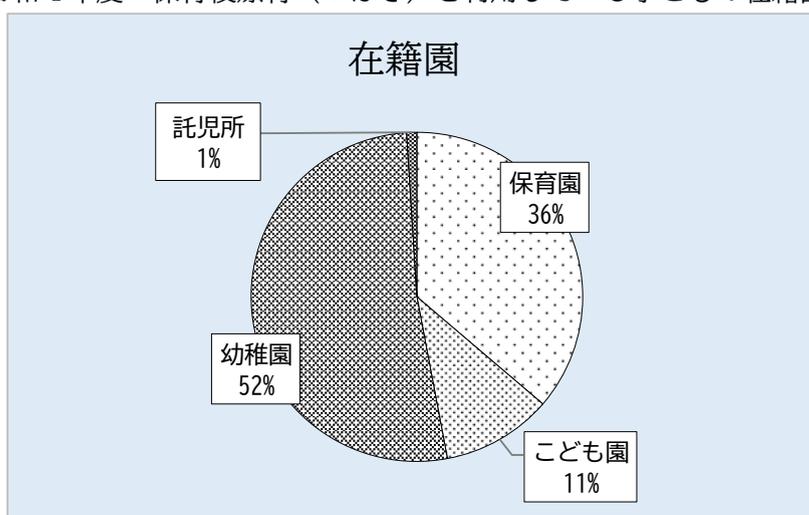
ウ 保育後療育（つばさ）

(ア) 年度別実績（登録者数・居住地・年齢）

（単位：人）

区分		H30	R1	R2	R3	R4
登録者数		103	107	96	102	102
居住地	岡崎市	87	93	81	92	92
	幸田町	16	14	15	10	10
年齢	年少児	44	35	33	40	35
	年中児	44	44	42	40	35
	年長児	15	28	21	22	32

(イ) 令和4年度 保育後療育（つばさ）を利用している子どもの在籍園



(5) 考察

ア 単独通所（わかば）

令和4年度は、令和3年度と同程度の入所申込みがあった。年少・年中児の57%が継続（進級）し、7名が地域の園へ移行した。個別療育が必要な子どもが入所しているため、地域の園への移行は難しい状況になっている。単独通所予定定員は50名だが、年度途中の入所希望が多く、毎年予定定員を超えて受け入れている。

また、令和4年度は鼻腔経管栄養（医療的ケア）が必要な子どもを継続療育することができなかったため、令和5年度からは環境整備を行い、医療的ケア児を受け入れる。

イ 親子通所（めばえ）

新型コロナウイルス感染症の罹患者が令和3年度よりも多く、それに伴い濃厚接触で自宅療養の対象となる子どもが、4月から9月・12月に多数発生した。このような状況下であったが、令和4年度は年度途中から土曜日を1クラスから2クラスに増やし、積極的に保護者へ空き状況をメール配信することで、利用者の増加につなげることができた。

しかし、下半期は登録者が150人となり、保護者からはもっと多く通いたいとの声が多く聞かれたが、希望日に通所できない課題が生じた。今後、単独通所枠の見直しを行うことで、親子通所枠が増える見込みであり、この課題を解消させたいと考えている。

ウ 保育後療育（つばさ）

支援の必要性が高い子どもが公立こども園に集中しているため、並行通園を利用する子どもが多く、保育後療育の利用が少なくなっている。保育後療育は保護者による事業所への送迎が必要となるため、保護者が就労している保育園よりも幼稚園に属する子どもの割合が多くなっている。今後も一人一人の利用者に合わせたサービス提供について、関係機関と協議していきたい。

2 保育所等訪問支援事業（あおい）

(1) 目的

障がいのある子どもが、集団生活に適応できるよう身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な支援を行う。専門の職員が地域の保育園や幼稚園、小学校等を訪問し、それぞれの子どもに合った適切な支援方法を担当保育士、教諭等とともに考える。

(2) 対象

岡崎市・幸田町在住で地域の園に通っている発達支援が必要な子ども

(3) 従事者

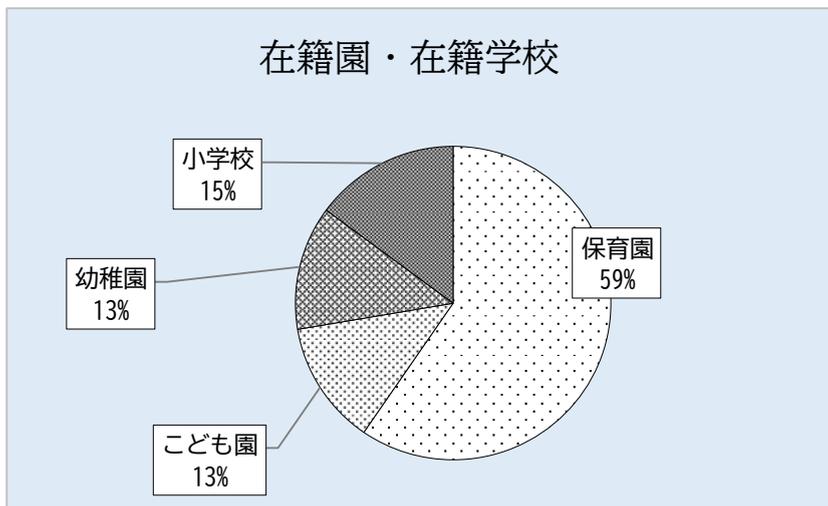
保育士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等

(4) 実施状況

ア 年度別実績（登録者数・居住地・年齢） （単位：人）

区分		H30	R1	R2	R3	R4
登録者数		36	39	44	50	47
居住地	岡崎市	26	28	29	33	28
	幸田町	10	11	15	17	19
年齢 (学年)	2歳児	0	0	1	3	0
	年少児	11	15	13	12	10
	年中児	18	15	14	20	16
	年長児	7	8	14	10	14
	小学1年生	0	1	1	3	2
	小学2年生	0	0	1	1	3
	小学3年生	0	0	0	1	1
小学4年生	0	0	0	0	1	

イ 令和4年度 利用している子どもの在籍園・在籍学校



(5) 考察

利用している子どもの在籍園・在籍学校の割合は、保育園が59%を占めている。これは、保育園は、保護者が就労していることにより、送迎を要する保育後療育等の通所利用が難しく、支援者が園等を訪問して支援を行う保育所等訪問支援事業の希望が多いことが理由として考えられる。登録者数は令和3年度から3人減少しているが、訪問回数はサービスの周知が進み、年々増加している。卒園後も支援を求める保護者がおり、小学校への訪問は対象となる子どもの進級とともに学年も上がっており、高学年化している。

3 日中一時支援事業（たんぼぼ）

(1) 目的

児童発達支援事業の単独通所（わかば）を利用する子どもの保護者が、就労と療育利用の両立をしやすいするために、療育開始前後の時間帯に子どもを預かり、見守り等を行う。

(2) 対象

単独通所（わかば）を利用している子ども

(3) 従事者

保育士、児童指導員

(4) 実施状況

ア 年度別実績（登録者数・居住地・延べ人数）（単位：人）

区分		R1	R2	R3	R4
登録者数		8	10	11	8
居住地	岡崎市	8	10	10	7
	幸田町	0	0	1	1
延べ人数		881	1,497	1,857	786

(5) 考察

既に保護者が働いていた家庭に対し、単独通所の利用を支援する目的で、令和元年度から本事業を開始した。保護者の就労時間に合わせて、単独通所の前後どちらかの時間帯での利

用が多く、令和3年度も延べ人数が増加している。保護者が安心して利用できるようになったことが理由として考えられ、仕事を持った保護者の就労支援につながっている。

4 相談支援事業

(1) 目的

発達に心配のある子と、その保護者・関係者からの相談に応じ、また障がい福祉サービスの利用申請時の計画書の作成や障がい福祉サービス支給決定後の連絡調整を行う。

(2) 対象

岡崎市・幸田町在住で発達の遅れや心配のある未就学の子ども、その家族、関係者

(3) 従事者

相談支援専門員

(4) 実施状況

年度別実績（相談件数・計画作成件数） （単位：件）

区分		H30	R1	R2	R3	R4
相談件数		3,682	3,490	3,707	2,802	2,595
計画作成件数	新規	305	405	431	547	770
	継続	503	336	283	255	242

(5) 考察

新規の児童発達支援の利用に関することや就学に向けた福祉サービスの相談ニーズが高く、断ることなく対応したことから計画作成件数が令和3年度に比べ増加した。今後も継続して他機関と連携を図り、相談支援を行っていく。

5 きょうだい支援

(1) 目的

こども発達支援センターを利用している子どものきょうだい児を支援するため、イベントを開催する。

(2) 対象

こども発達支援センターを利用している子どものきょうだい児及びその保護者

（単位：組）

日程	名称等	内容	参加家族
8月20日	親子クッキング	「飾り巻きすしをつくろう」	2
12月23日	きょうだい支援 (スポーツ)	「親子でポッチャや卓球を楽しもう」	3

6 家族支援

(1) 目的

こども発達支援センターを利用している子どもの家族を支援するため、各種講座やイベントを開催した。

(2) 場所

こども発達センター

(単位：人)

日程	名称等	内容	参加者
5月10日	父母講座	「食事について」・「子どもの口腔機能の向上について」 講師：こども発達支援センター管理栄養士、言語聴覚士	26
5月26日	父母講座	「食事について」・「子どもの口腔機能の向上について」 講師：こども発達支援センター管理栄養士、言語聴覚士	12
6月9日	説明会	親子療育の家（旧緑の家）説明 講師：愛知県医療療育総合センター 職員	25
6月13日	ペアレント メンター講座	茶話会 講師：つぼみの会	30
6月20日	父母講座	「就園先を選んだ理由」 講師：先輩ママ	47
8月1日	説明会	保育園入所説明 講師：こども発達支援センター所長	24
8月29日	父母講座	「子どもの発達理解と対応を学ぶ」 講師：粟屋医院 小児神経科医	36
9月8日	ペアレント メンター講座	茶話会 講師：つぼみの会	40
9月12日		「自閉症の理解」 講師：自閉症 SWING	39
9月22日	父母講座	「運動が苦手なお子さんへのアプローチ」 講師：愛知県三河青い医療療育センター 理学療法士	39
10月20日	父母講座	「食事について」・「子どもの口腔機能の向上について」 講師：こども発達支援センター管理栄養士、言語聴覚士	26
10月27日		「子どもの歯科衛生について」 講師：岡崎歯科医師会	43
11月14日	ペアレント メンター講座	茶話会 講師：あいち LD 親の会	38
11月17日	父母講座	「感染症について」 講師：こども発達支援センター看護師	33
11月21日	父母講座	「感染症について（1歳児対象）」 講師：こども発達支援センター看護師	6
11月21日	父母講座	「感染症について」 講師：こども発達支援センター看護師	29
11月22日	父母講座	「パパ・じいじ集まれ」 茶話会 講師：こども発達支援センター所長、臨床心理士	8

11月29日	父母講座	「次年度福祉サービス」 講師：こども発達支援センター所長	30
12月1日	父母講座	「次年度福祉サービス」 講師：こども発達支援センター所長	23
12月20日	父母講座	「食事について（1歳児対象）」・「子どもの口腔機能の向上について（1歳児対象）」 講師：こども発達支援センター管理栄養士、言語聴覚士	3
1月30日	父母講座	「子どもの発達について」 講師：こども発達医療センター所長	32
2月2日	父母講座	「子どもの発達について」 講師：こども発達医療センター所長	27
2月20日	父母講座	「自閉症の理解」 講師：こども発達支援センター所長	26

第5 SPC（PFI事業者）管理部門の事業

1 総合受付

こども発達センターの総合的な窓口として、利用者の目的に応じて案内を行う。また、相談センター、医療センター、支援センターと連携を図り、スムーズに運営できるよう調整を行う。

開館日 月曜日から土曜日まで

ただし、祝日法による休日及び1月2日、同月3日、12月29日から同月31日までを除く

※ 医療センターは月曜日から金曜日まで開所

開館時間 8時30分から17時15分まで

2 託児室

(1) 目的

こども発達センター及び友愛の家を利用する子どもの保護者が、利用に専念できるよう、利用する子どもの兄弟姉妹を有料で預かる。

(2) 対象

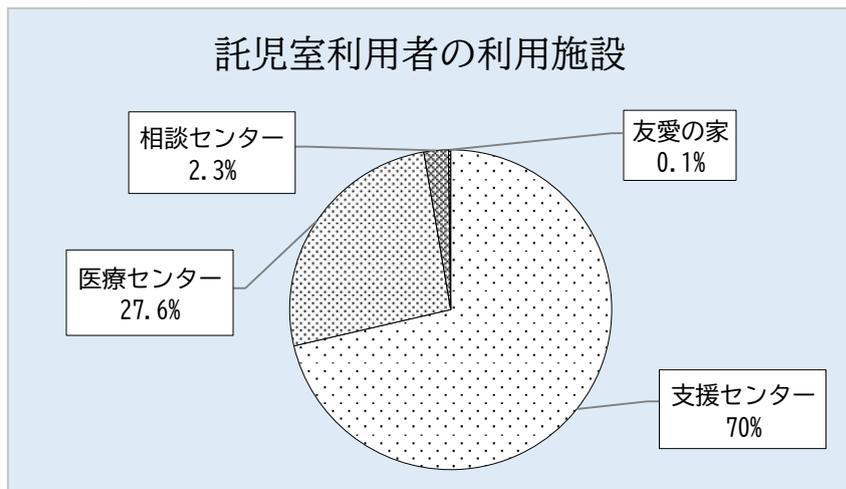
保護者とともにこども発達センターを利用する子どもの兄弟姉妹及び友愛の家を利用する保護者の子ども（未就学までで利用時間帯に保育所等や保護者以外による育児ができない場合に限る）

(3) 利用実績

ア 年度別実績（登録者数・延べ利用者数・居住地）（単位：人）

区分	H30	R1	R2	R3	R4	
登録者数	98	116	126	114	146	
延べ利用者数	1,721	1,581	2,007	1,824	1,688	
居住地	岡崎市	1,663	1,503	1,740	1,674	1,648
	幸田町	58	78	267	150	40

イ 令和4年度 託児室利用者の利用施設



(4) 考察

令和4年度の延べ利用者数は、令和3年度と比べて7.5%減少した。4、5月の利用が少なかったことが影響している。新型コロナウイルス感染症が拡大する中、いつもは託児を利用していた親子通所利用者が子どもを家族に預けて託児を利用しないというケースがあり、感染状況による影響もあったと考えられる。

なお、幸田町の親子通所利用者で託児を必要とする方が令和3年度より少数であったため、幸田町の利用者数が大きく減少している。

3 オープン・スペース（一般開放の遊戯室）

(1) 目的

子どもの特性等により地域の遊び場になじめない親子に対し、社会参加のきっかけ作りを促すことを目的として気兼ねなく遊べる場を提供する。

(2) 利用実績

ア 年度別実績（延べ利用者数）

（単位：人）

区分	H30	R1	R2	R3	R4
延べ利用者数	491	594	-	-	7

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年3月13日から利用を中止し、令和2年度及び令和3年度は利用実績なし

(3) 考察

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、利用対象の子どもの多くがマスクの着用が難しいことから、感染防止のため令和2年度から利用を中止してきた。感染者数が減少した状況を鑑み、令和4年11月からこども発達支援センター利用者に限って平日の一般開放を再開したものの、こども発達支援センターのサービス提供終了時間から一般開放の遊戯室の利用開始時間までに時間があることから利用しづらく、多くの利用にはつながらなかった。

4 こども発達センター東棟（体育館棟）

(1) 目的

体育館及び各種会議室等を備え、こども発達センター及び友愛の家の事業で利用するほか、有料施設として一般に貸出しを行う。

(2) 対象

障がい者団体、障がい児・者及びその支援者、障がい福祉サービス事業所等、岡崎市及び幸田町在住の一般利用者

(3) 利用実績

ア 年度別実績（施設別延べ利用者数）

（単位：人）

区分	H30	R1	R2	R3	R4
調理体験室	20	580	179	350	783
研修室	382	3,822	3,963	4,346	6,997
第1多目的室	391	4,549	2,646	7,043	8,596
第2多目的室	397	4,097	2,755	6,318	8,393
体育館	1,992	14,506	14,980	21,320	25,256
計	3,182	27,554	24,523	39,377	50,025

※ こども発達センター東棟（体育館棟）は平成31年2月から供用開始

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月13日から5月31日まで及び令和3年1月18日から2月7日まで貸出しを中止

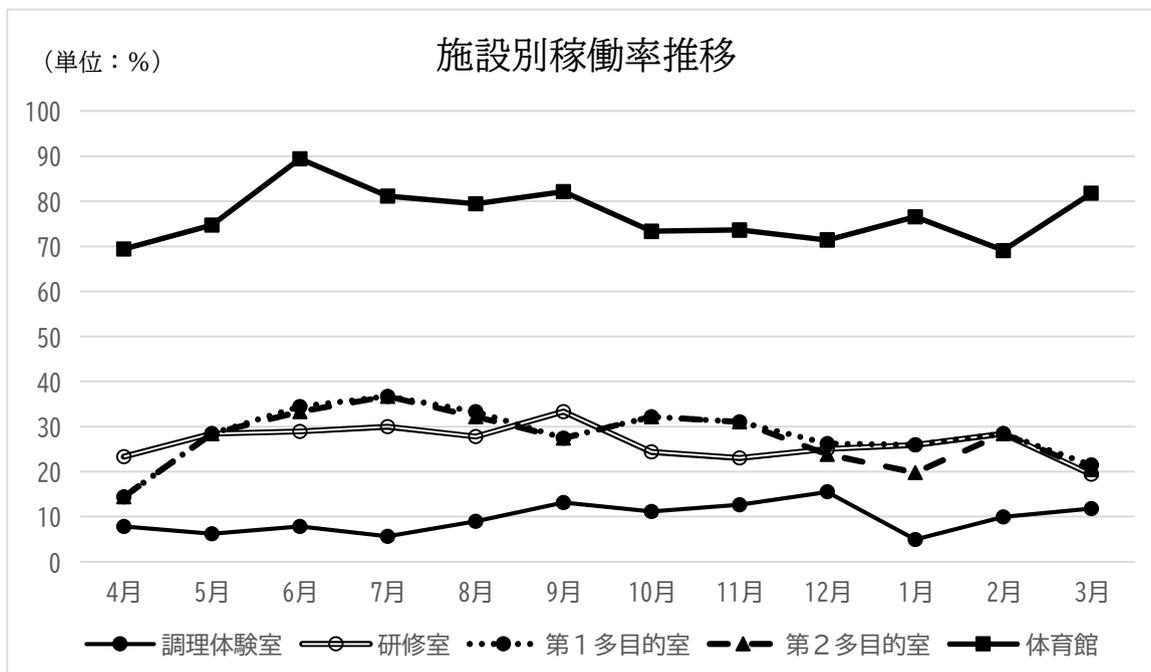
イ 令和4年度 月別実績

（単位：延べ人数＝人、稼働率＝％）

		調理 体験室	研修室	第1 多目的室	第2 多目的室	体育館	合計
4月	延べ人数	147	524	415	415	1,721	3,222
	稼働率	7.8	23.3	14.4	14.4	69.4	33.1
5月	延べ人数	23	530	683	683	1,991	3,910
	稼働率	6.2	28.4	28.4	28.4	74.7	40.1
6月	延べ人数	38	770	859	836	2,769	5,272
	稼働率	7.8	28.9	34.4	33.3	89.4	47.2
7月	延べ人数	15	608	838	838	1,729	4,028
	稼働率	5.6	30.0	36.7	36.7	81.1	45.2
8月	延べ人数	57	611	784	760	1,935	4,147
	稼働率	8.9	27.8	33.3	32.2	79.4	43.5
9月	延べ人数	98	781	705	705	1,936	4,225
	稼働率	13.1	33.3	27.4	27.4	82.1	44.2
10月	延べ人数	46	526	965	961	2,217	4,715
	稼働率	11.1	24.4	32.2	32.2	73.3	41.1
11月	延べ人数	76	520	726	722	2,148	4,192
	稼働率	12.6	23.0	31.0	31.0	73.6	40.8
12月	延べ人数	74	467	650	592	2,378	4,161
	稼働率	15.5	25.0	26.2	23.8	71.4	38.9
1月	延べ人数	28	481	655	540	1,936	3,640
	稼働率	4.9	25.9	25.9	19.8	76.5	38.3

2月	延べ人数	84	671	562	590	1,784	3,691
	稼働率	9.9	28.4	28.4	28.4	69.1	38.9
3月	延べ人数	97	508	754	751	2,712	4,822
	稼働率	11.8	19.4	21.5	20.4	81.7	39.4
合計	延べ人数	783	6,997	8,596	8,393	25,256	50,025
	稼働率	9.6	26.5	28.3	27.3	76.8	40.9

ウ 令和4年度 施設別稼働率推移



(4) 考察

令和4年度は、47団体の新規登録があった。令和3年度の新規登録は32団体から15団体増加している。

延べ利用者数は、全ての施設で令和3年度より増加しており全体で10,648人の増であった。

体育館の利用は、他の有料貸出施設と比べて突出している。新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響は、令和3年度に引き続き令和4年度も貸出中止措置をとらなかったため、利用に大きな影響は無かった。また、参加者の多い友愛の家の運動講座が体育館で開催されるなど、1回当たりの利用人数の多い利用が増えたことが主な増加の要因と思われる。

調理体験室の利用者数は令和3年度と比べて433人増えている。チラシ配布による福祉事業所への周知の効果が大きい。今後も多くの方に利用していただける施設を目指し、まずは知っていただくことを意識して取り組んでいく。

令和4年度 岡崎市こども発達センター事業報告

発行 令和5年7月

岡崎市こども発達センター（すくも）

〒444-0011 岡崎市欠町字清水田6番地4

電話：0564-23-7564（代表） F A X：0564-23-7577

ホームページ：<http://fukushi-okazaki.jp/kodomohattatsu-center/>

（発行担当）こども発達相談センター（すくも3階）

電話：0564-23-7534・7067 F A X：0564-23-7538

岡崎市こども発達センター

すくも



種の妖精
すーりん

花の妖精
もーりん

葉っぱの妖精
くーりん

※施設の愛称説明※

施設の愛称 すくも

みんな元気にすくすく育てほしい思いを込めて
「すくすく育つこども」を略したものです

※キャラクター紹介※

種の妖精 すーりん 葉っぱの妖精 くーりん 花の妖精 もーりん

名前の由来：施設の愛称「すくも」の頭文字からとっています

なぜ妖精なのか：常に優しく見守っているイメージがあり、頭には種や双葉や花が付いていて、成長や開花を表しています

ほっぺに桜がある：「日本さくら名所100選」に選定された岡崎公園や当施設に咲く桜の花びらモチーフにしました

「りん」：三河弁の語尾に使われています